

パネル展示を見て

1月15日 阪神・淡路大震災でどれだけ家が壊れたか、パネル
(金) を見て、家とかがつぶれたソ、ビルなどが倒れたりして
いるのはびっくりした。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今回の講演会を聞いて阪神・淡路大震災でどれだけ被害が
出たか、どれだけの人が苦しみを味わったか、少しでも分かったと思
う。自分は、まだ大きな地震は体験したことがないけれど、日ごろから
防災を意識したいと思う。講演会を聞いて被害の大きさに心が苦
しくなった。災害では、今まで身近にいた人が突然死んでしまっ
たりする。だから、自分も今後大切に生きていこうと思う。

パネル展示を見て

1月15日 写真から、この阪神・淡路大震災の悲惨さが強く伝わ
(金) ってきました。必死で水や食料などを求める姿を見て、
こんな時だからこそ支え合ってやっているんだなと感じました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

新聞社の仕事は現場へ行って写真を撮り、状況を記事にまとめるという
ことで、とても大変だと思えます。防災学習を受けて、過去の自然災害や、
大きな災害があったらどのようにすればいいのかわかることができました。
実際新聞社さんの話を聞いて、その災害が自分が学んだことをい
ろいろ丁寧に教えてくれたので、とても分かりやすかったです。

今は新型コロナウイルスの影響もあり、もし大きな災害があったら避難
所はとりなるんだろう、と不安に思っていました。でも、この講演会を通して、
避難所がある時の注意点や持ち物について分かったので、気を付け
ていきたいと思えます。これから防災と減災について考え、被害
を少しでも小さくできればいいなと思います。また、今回知ったことを
生かしていけたらいいなと思いました。

パネル展示を見て

1月15日 僕はパネル展示を記者さんが来る前と来る後との回
(金) 見ました。そこでやはり、実際にその時働いていた被災
した人の生の声で語られた後の方がより心にくるものが
あり感動しました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

多くの人々を襲った阪神・淡路大震災、小学校の時の
先生にも小さいころからこの震災のことを教えられて
きました。講演会ではこれまで僕が知っていた以上の
ことを教えてもらいました。当時の新聞の写真を見
て、「自分も被災して大変なのになぜそこまで
新聞を出そうと思ったのだろう」とも思いました。
おたごさんは自分達以外のみんなも情報を欲してい
るからと知り、そういうことまで考えを告げたい中では
行っていたのかと感動しました。今回学んだことはル
の中が絶対
忘れないようにしたいです。

パネル展示を見て

1月15日 私の知っている町や親しみのある場所、私の
(金) 好きな神戸が「悲しい姿」になっていて、色が滯っている
ような感じがして、凄心が苦しくなりましたが、協力し合っている写真も
あり、心が温まりました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

私は実際には、阪神・淡路大震災を体験して
いませんが、今回の講演でたくさんことを見たり、
聞いたりして、これはずっと伝え続けていかなければ
いけないと思いました。話を聞いていて、もし私が
その立場だったら何か私にはできるだろうかと思いまし
た。いつ起こるか分からない地震がもし明日起きたと
して、私は家族を守るだろうか何かできるだろうかど
考える機会となりました。話やパネルを見たり、聞いたりして、
実際には経験していませんが、神戸に住む人として、凄
心が苦しみましたが今の神戸が成り立っているのは、当時の人々が
支えあったからだと思います。本当にありがとうございました。

パネル展示を見て

1月15日 パネル展示では、震災が起きた当時の写真があって、
(金) 震災の直後には、こんな風景だったんだなと知り、大変
だったんだろうなと思った。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を終えて思ったのは、神戸新聞社の人たちは、なにかあたり、
ずいぶんかけて、記事にのせて、配ることに。

講演会の時にももらった新聞でも、記事の内容がとても詳しく書かれて
おり分かりやすかったです。

もう一つは、僕たちのために、学校に震災当時のパネルや、震災当時の
新聞もクラスごとにはてくれたこと、自分は、その時、生まれていなくて、
震災のことなんか全然、分からなかったけど、こうやって、神戸新聞社
の人々が、資料を持ってきてくれたことにより、震災はこうだったよと改
めて知ることができました。これから、人々に分かりやすく、今よりも良い新聞
を作りつづけてください。

パネル展示を見て

1月 日 避難生活は、とても苦しいものだなと感じました。今の
()ように、余裕がなくて、必死で生活していたことが伝わって
ました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今まで防災学習をしていて、新聞の写真などを見ていたけれど、
その記事や写真を書いたり、さっえいしたりした人までには、考えてい
なかつたなと思いました。新聞は毎日情報をくれるものだから、被災
した人たちにとって、心強いものだから、たのびはないかなと思いました。

新聞が人の手に行くまでに、新聞社の人、印刷所の人、配
達の人などたくさんのおかけがあるんだなと思いました。

新聞社の人たちが新聞を届けた、という気持ちがあったから、
京都新聞社も手伝ってくれたのではないかなと思いました。

どれだけ苦しかったのかは、経験しないと分からないことですが、でも、震
災の中で生き残った人がいて、それを自分達に伝えてくれたから、私達らは、
当時のことを知ることができると感じています。

パネル展示を見て

1月15日 震災当時は、いろんな所で炎が燃え、建物も(金) 倒壊していたが、今ではその面影がどこにもないくらいに復旧していることに驚き、感動した。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

神戸新聞社の方の話は、今まで学んだ震災の話やパネルよりも、実際に経験しているということがあり、震災についてあがりやすく学べた。淡路でも60人以上の死者が出たということも忘れないために震災の名前に淡路がはいるという話を聞いて自分たちができる大切なことは震災を忘れず伝えていくことなんだと改めてわかった。また、神戸の被害ばかりをメディアが伝えていたため、援助が神戸以外になかなか来なかったという話を聞いて、被災したすべての地域に援助がいくようにしてほしいと思った。

パネル展示を見て

1月13日 馬場とかの屋根が半分は壊れていて、おんなと云う写真が見た(水) だけでもそう言うくらいに、本当に地震は、これだけの力だと思いきらい。これからは減災のことについて、学ばなければいけません、と思っております。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

地震は、けげなく、津波は、おかしなとき、2度大きく揺れたと云うこと、どのようにすればいいかなどを学ぶ。学んでいる途中から、おかしなことがあった。自分たちは、震災の経験がなくて話しをきいているけれど、もし本当に南海トラフが来るとき、どうすればいいのかわかる。でも、プリントに書きこんでいることを、もう一度見直すと、今の自分の住んでいるところとか、小学校で教えてもらったこととか、たまたまの知識があって、今回の学習でも、もっともたくさん知識をくれたと思っております。そして、阪神淡路大震災を忘れない、後にも伝えていって、日々減災の防災について、学んでいってほしいと思っております。新聞社がどれだけの力を変えたのか、も知れず、これからも伝えていったり、お母さんに伝えてあげたいです。

パネル展示を見て

1月15日 ほぼはパネルの展示を見て自分の1日
(金) 地域や近辺の場所が展示してあること
などいろいろと壊れていたらなんと思っただころが多かったよ

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

今回の防災学習を終えて新聞社の方に来て
ださせて当時のことをたくさん教へてくださり
その時の神戸新聞社は大変だったということ
自分で体験してあったことが自分で体験
したことをみんなに言っておアドバイスをしてくれて
防災のことがよくわかりました
あと阪神淡路大震災はすごい大きな地震だ
ということもわかりました。
あと新聞社の人は大変だと思いましたなせかという
朝刊が終了するまでに夕刊を書き始めないといけないから

パネル展示を見て

1月15日
(金) パネル展示を見て震災の時だけの人々がボウ
リングに来てくれたか人々の頑張る姿を知りました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

小学校の時に何回か学習をしたが初めて体験した人
の話を聞きました。それはとても悲しく重い話をしていたが
とても地震という災害のつらさを知りました。このような状
況の中でも頑張って働く神戸新聞の人のおかげを知り
ました。僕の命は七人の子供の命や一生懸命命を懸けて
きてくれた人がいるので今が来ると思えます。だから今ある
子かけがえのない命を大切にしていかなければ
ならないと思います。
ありがとうございました。

パネル展示を見て

1月15日 災害はたくさんの種類がありそのため、たくさんの
(金) 助け合いや苦い思い出が山ほどあったろうな
と写真を見ただけでその風景が伝わってくる感じがしました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

たくさんの災害は いつどこでおこるのかわからないだから
こわい。たくさんの人の心をいため、悲しめてしまう...しかし
そんな人たちの気持ちを少しでも安心にしてくれたのが神戸
新聞だんだなと話を聞いて思いました。

神戸に住んでいる人との信頼があるからこそできた事だと
思いました。今、震災が起きた時の持ち物や対策がよく分
かりとても勉強になりました。

助け合いを交えて今の美しい神戸が成り立っているんだ
なと思いました。七つな、人の命や一生懸命生きて生きて
くれた人たちの命があるから今があることを忘れないようにしたいです。

ありがとうございました

パネル展示を見て

1月14日 ぐちゃぐちゃになった家、建物やブルーシートで
(水) つくられた家などを見て、そのときの生活がどれ
だけ大変だったかを知ることができました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

三ヨシさんのお話を聞いて、地震が起きたらそこで終わりでな
なく、着る物(冬なら暖かい服が必要)や食べる物(飲む物も)
住む場所など、いろいろなことをしていかなければ生きてい
けない中、あきらめずに努力してきた神戸の人たち、新聞社の
人たちは本当にすごいと思いました。三ヨシさんの話の中で
衣食住以外にも二次災害で津波や火事、土砂崩れ、土石流
など、いろいろなことに気をつけなければいけないことも学べ
て、今回は本当にいい勉強だったと思えました。これからは
地震がいつきても大丈夫なように、しっかり対策をしておま
いでも貴重なお話、ありがとうございました。

パネル展示を見て

1月15日 ひがいにあった場所などの写真がたくさんおいてあって、
(木) 人々や建物だけじゃなくて犬などの動物の写真もあって、
とても大変だったんだなと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

「1月17日」この日は、とても大切な日だと今日の講演会
でも、と強く思えるようになりました。新聞社の仕事の人々は、
幸いところをとって、人を傷つけてしまったり、自分も傷ついてしまっ
たりしてとても大変な仕事だなと思います。でも、人々の助け合いや、
暖かさをかみじて、私も勇気をもてた気がします。家族を失って、これから
どうすればいいかわからないという人々もいると思います。私ももしそんな
ことになったら、とてもこわくなりました。地震というのは、だれもわるいこ
とじゃないです。だからこそ、今回の講演会をいかして、いろいろな
たすきをいじり、家族とはなしあ、たりして、少しでもひがいを大きくし
ないように、私もがんばりたいです。

パネル展示を見て

1月15日 パネルを見たと知っているものや知らないものがたくさん
(金) ありました。今から考えられないことをパネルを通して伝えるこ
とができるので後世に伝えていってほしいです。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

当時の記者の人の言話を聞くと新聞などで分からない所が
色々ありました。私達は地震を体験していないけど今まで災害
が起きたときの防災を考えて減災することが出来るので一人一人も、
被害を小さくしていきたいです。新聞だけじゃ分からないが当時の新
聞などを見ると、自分も不安なのに作り続けたし、怒られるかも
知らないがミッターをおしたりしているのも神戸市民のために
なっているんだろうなと思いました。それをも努力するのは新聞社の
熱い思いがあったからだと思います。地震について分からない人も多
いけれど人々の希望になる新聞を作り続けて伝えていって志
かないようになってほしいです。

パネル展示を見て

1月 日

()

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

阪神・淡路大震災は、小学校から学んできた一つの教科であり、後世に伝えるべき思い出です。この震災により、6434人にも命が奪われ、平和や幸福を失くし、神戸を戦場のようなむごたらしい場にかきかえられました。そんな辛い現実と直面した市民の方々がどれ程の苦しみを、悲しみを、感じたかは僕には分かりません、分かりませんが、今回の学習を通して、希望を届けることは出来ます。みんなに夢を、笑顔を、未来を届けることは出来ます。パネル展示や神戸新聞社の方の言葉、怒鳴られてもシャッターを切った気持ち、そんな新たな気づきを得て、今自分が被災者の方々に何が出来るのか、何をしなければならぬのか、改めて実感することが出来たと思います。神戸新聞社、みなさま、ありがとうございます。

パネル展示を見て

1月 日

(水) 火事の写真が、おどろかしてびっくりした。
地震はビルまでたおすのか。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

講演会を終えて、小学校のころは先生から聞くはなしばかりで、あまり実感がなかったけれど、まじおの震度7のゆれを体験したのはなまじは、風景も、想像できたし、リアルをかんじた。
幼稚園のころは、ただただ、なんにも感じなかった。
「なんでこんなおどろかす」とか思っていたけど、大きくなると、この防災学習の必要性と、おどろかすおどろかすを、理解できようになつて、おどろかすおどろかすものだとおどろかすおどろかす。
そしておどろかすおどろかすおどろかすおどろかすおどろかす。
神戸新聞の新聞がよみたくなつてきた。

パネル展示を見て

1月15日 私は、パネル展示を見て、震災が起きてすぐは建物や
(金) 壊れていたり、ぼろぼろだった町が今ではきれいになっ
て、すごいいいと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

私は講演会で話を聞いて、日本は災害が多いし、地震はいつ起
こるか予測できないから、しっかり備えをしておく必要があると分か
りました。今は感染症も流行っていて、マスクなど、ないといけない物
が多いから、いつでも持ち出せるように準備しておきたいです。そ
れと、災害が起きたとき、新聞社は被災者に少しでも多くの
情報も伝えようとして、助けを求めている人がいるのに写真をと
らなければいけないのは大変だなと思いました。でも、新聞など
どの情報があると、被災者の人は安心できるし、新聞は大事だ
ということが分かりました。

パネル展示を見て

1月15日 パネルを見て当時の状況を知ることができました。
(金) たくさん写真もありました。今こうやって普通に暮らしている
ことに本当に感謝しないといけないなと思いました。

講演会を終えて (防災学習に関する感想と新聞社の仕事についての感想を入れよう)

この講演会を開いていただき本当にありがとうございました。とても
貴重な体験でした。当時の状況であったり、痛さや苦しみがとても伝
わってきました。小学生の時もこの時期になると毎年、防災学習をしてき
ました。今回、改めて地震の怖さを深く知ることができました。神戸新聞の
方々がどんな状況であろうと市民のために新聞作りをやめないとい
うことにも感動しました。全員で協力し、作っていた新聞を読ま
せていただきました。その文章(文字)に思いがたまっているのがとても
感じました。この講演会を開いていただきのおかげでもっとも、
災害について学ぼうと思いました。これからこの神戸で生きていくためにも、
絶対にこの震災の事は忘れず、胸に焼きつけてこれから生きていきたいと思います。
神戸新聞社のみならず、これまでも頑張ってください。本当にありがとうございました。